

事業所名

インクルーシブデイサービス ippo

支援プログラム(参考様式)

作成日

2026 年

5 月

25 日

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|------|------|-----------|---|----|----|-----|--------------------|--|
| 法人（事業所）理念 | すべての人が成長し輝ける場を提供します。 | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | <p>障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが安心して過ごせるインクルーシブな環境を基盤とし、一人ひとりの発達段階・特性・興味関心に応じた個別最適な支援を提供します。</p> <p>当事業所では、放課後等デイサービスと共生型地域密着型通所介護を同一空間で運営している特色を活かし、多世代との自然な関わりを通して、社会性・役割意識・他者理解・自己肯定感の育成を図ります。</p> <p>また、支援は個別支援計画に基づき、感覚統合理論や発達支援の視点を取り入れながら実施します。活動を通じて「できた」「伝わった」「認められた」という成功体験を積み重ね、主体性や自己効力感を高める支援を行います。</p> <p>さらに、活動ごとに「姿勢保持」「感覚調整」「言語表出」「他者との協働」「見通し理解」「自己調整」などの評価観点を設定し、日々の支援の中で成長過程を丁寧に把握・共有していきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | 9 時 | 30 分 | 17 時 | 30 分 | まで | 送迎実施の有無 | あり | なし | 営業日 | 月曜～土曜 日曜・祝日 臨時開所あり | |
| 支 援 内 容 | | | | | 評 価 の 観 点 | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 健康状態の把握と生活リズムの安定 食事・排泄・身支度等の日常生活動作に対する段階的支援 調理活動や食育活動を通じた生活スキルの獲得 活動の見通し提示による安心感の形成と主体的行動の促進 | | | | 基本的な生活習慣の定着状況手順理解と見通しを持った行動自己選択・自己決定の機会の増加情緒面の安定性 | | | | | |
| | 運動・感覚 | 感覚統合の視点を取り入れたサーキット活動や粗大運動 バランスボール・平均台・トランポリン等を活用した体幹機能へのアプローチ リズム運動や模倣運動を通じた身体協応性の向上 ミット運動やステップ運動を通じた姿勢保持・ボディイメージ・力加減の学習 視覚・聴覚・触覚・固有受容覚など、多様な感覚入力を活用した感覚調整支援 | | | | 姿勢保持や身体コントロールの向上 感覚刺激への反応や自己調整力 指示理解と模倣動作の正確性 集中持続時間の変化 力加減や身体の使い方の習得 | | | | | |
| | 認知・行動 | 空間・時間・数量等の概念形成を促す活動 ルール理解や順序立てを必要とするゲーム活動 ブロック・立体構成・創作活動を通じた認知発達支援 状況理解や行動選択を促すソーシャルスキルトレーニング 活動の振り返りを通じた自己認知の促進 | | | | 見通し理解と行動調整 ルール理解や順番待ちの定着 注意の切り替えや持続 問題解決に向かう姿勢 自己理解・自己表現の広がり | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 活動場面に応じた適切な声量や伝え方の学習 要求・報告・相談など実生活に即した言語表出支援 音楽・リズム・読み聞かせを活用した言語理解の促進 プレゼンテーション活動や発表機会を通じた表現力支援 他者とのやり取りを通じた双方向コミュニケーションの形成 | | | | 言語理解と表出の変化 自発的な発信の増加 相手意識を持ったやり取り 非言語コミュニケーションの活用 場面に応じたコミュニケーション調整力 | | | | | |
| | 人間関係社会性 | ペア活動や協同活動を通じた他者理解の促進 集団活動への参加経験を通じた社会性の育成 多世代交流を活かした役割意識や思いやりの形成 季節行事や地域交流を通じた社会参加経験 自己肯定感を高める成功体験の積み重ね | | | | 他者との関わり方の変化 集団参加への意欲 協力行動や役割遂行 感情コントロールや対人調整 自己肯定感や挑戦意欲の向上 | | | | | |

| | | | |
|------------------|---|---|---|
| <p>主なプログラム</p> | <p>1. 感覚統合サーキット バランス遊具や跳躍運動、支持運動等を組み合わせ、前庭覚・固有受容覚触覚への適切な刺激入力を行いながら、姿勢保持・身体コントロール・集中力向上を支援します。</p> <p>2. リズム運動・ダンスプログラム 音楽や歌に合わせて身体を動かす活動を通し、リズム感・身体協応性・模倣力・自己表現力の向上を図ります。ダンスやリズム遊びの中で、タイミングを合わせる経験や集団参加の機会を積み重ねながら、他者との一体感や自己肯定感を育みます。また、身体を楽しく動かす経験を通して、情緒の安定や自己調整力の向上につなげます。</p> <p>3. 学習・個別課題支援 一人ひとりの発達段階や認知特性、興味関心に応じて個別課題を設定し、「できる方法」を一緒に見つけながら、学習習慣や達成経験につなげます。また、児童の特性や課題に合わせてオリジナルで作成した教具を活用し、専門職員が発達面・認知面・感覚面の見立てを行いながら支援を実施します。「理解しやすい」「取り組みやすい」環境を個別に調整することで、成功体験を積み重ね、自己肯定感や主体性の向上につなげます。</p> | <p>4. 創作・表現活動 アートや制作活動を通して、手指操作・空間認知・構成力・表現力を育みます。素材選びや工程の組み立て、道具の使用経験を重ねることで、見通しを持って取り組む力や集中力の向上につなげます。また、自分の思いやイメージを形にする経験を通して、自己表現の幅を広げるとともに、「できた」「完成した」という達成感や自己肯定感を育みます。</p> <p>5. クッキング・食育活動 調理活動を通して、手順理解・役割分担・衛生意識・協働性を育みます。食材を切る・混ぜる・盛り付けるなどの工程を経験する中で、手先の操作性や段取りを考える力、周囲と協力して取り組む力を養います。また、食材に触れる経験や「作る」「食べる」を通して食への興味関心を広げ、生活に必要なスキルや自立に向けた力の向上につなげます。</p> <p>6. 季節行事・地域交流活動 季節イベントや外出活動、多世代交流を通して、社会経験や地域とのつながりを広げます。公共の場でのルールやマナー、人との適切な関わり方を実践的に学びながら、社会性や適応力を育みます。また、普段とは異なる環境や活動への挑戦を通して、新しい経験への意欲や柔軟性を高めるとともに、「参加できた」「やってみた」という成功体験を積み重ね、自己肯定感や自信の形成につなげます。</p> | |
| <p>家族支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を基盤とし、日々の様子や成長の共有を行いながら、安心して子育てができる環境づくりを支援する ・個別支援計画に基づき、ご家庭での関わり方や声かけについて具体的な助言を行い、家庭と事業所で一貫した支援が行えるよう調整する ・発達特性や行動の背景について専門的な視点から分かりやすく説明し、保護者の理解を深めることで、不安の軽減につなげる ・きょうだいを含めた家族全体への支援を視野に入れ、家庭内での困りごとや関係性についても相談に応じる ・進学や進路、将来に関する不安に対して、情報提供や関係機関との連携を通じた支援を行う ・共生型サービスの特性を活かし、多世代との関わりの中で見られる子どもの姿や成長を保護者へフィードバックすることで、新たな気づきや肯定的な理解につなげる | <p>移行支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの変化（進学・進級・卒業等）を見据え、将来的な生活や社会参加を意識した支援を行う ・本人の特性や強み、配慮事項を整理し、次の環境へ円滑に移行できるよう支援する ・新たな環境に対する不安軽減のため、事前の見通し提示や段階的な移行支援を実施する ・学校、相談支援専門員、医療機関、他事業所等の関係機関と定期的かつ継続的な情報共有を行う ・見学や引き継ぎ、必要に応じた同行支援等を行い、移行時の負担軽減を図る ・移行支援を単発的な対応ではなく、日常支援の延長として継続的に位置付けている |
| <p>地域支援・地域連携</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉・教育等の関係機関や障害福祉サービス事業所等との連携 ・個別支援計画に基づき、支援内容や対応方法の共通理解を図る ・サービス担当者会議やケース会議を通じて、役割分担を明確にしたチーム支援を構築する | <p>職員の質の向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内での研修の実施 ・保健・医療・福祉・教育等に関する外部研修の定期的な参加 ・強度行動障害支援者養成研修の受講 |
| <p>主な行事等</p> | <p>・撮影会 ・お仕事体験 ・夏祭り ・運動会 ・クリスマス会 ・お楽しみ会 ・外出 など</p> | | |